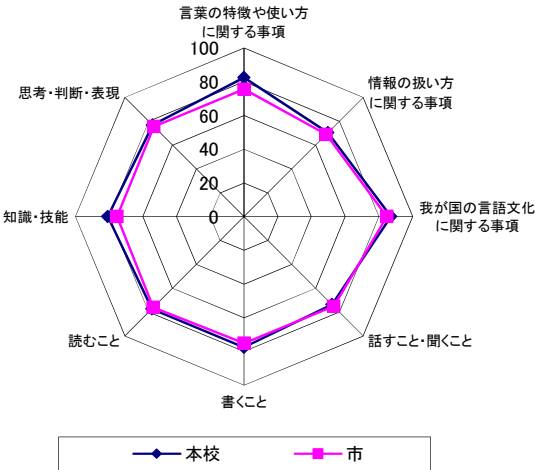


宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	82.5	75.6	66.5
	情報の扱い方に関する事項	70.5	69.0	62.0
	我が国の言語文化に関する事項	87.1	84.7	78.2
	話すこと・聞くこと	73.7	75.3	69.4
	書くこと	77.5	75.2	65.1
	読むこと	77.3	76.2	68.8
観点別	知識・技能	80.9	75.3	66.7
	思考・判断・表現	76.7	75.6	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

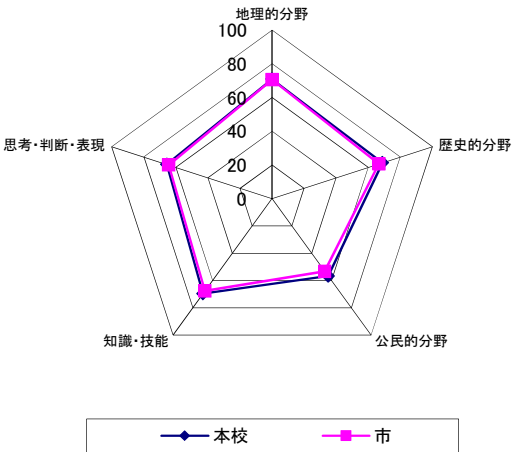
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	正答率は、市を6.9ポイント上回っている。 ○漢字の読み書きに関する設問では、全ての問題で市の平均を上回った。 ○対義語に関する設問で、2.6ポイント、敬語に関する問題で9ポイント、それぞれ市の平均を上回った。 ●助動詞についての設問の正答率で、市の平均を0.8ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字学習については、定期的に行っている漢字テストを今後も継続して行う。 ・敬語については、授業中だけではなく普段の生活でも正しく使えるよう指導する。 ・文法に関する学習は、3年間を通して少しずつ積み上げていくものであるため、以前学んだことを復習してから新しい文法を学習できるよう、計画的に授業を行う。
情報の扱い方に関する事項	正答率は、市を1.5ポイント上回っている。 ○説明的な文章の内容を読み取り、情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を捉える問題では、市の平均を3.3ポイント上回っている。 ●情報同士の関係について理解し、考えを分かりやすく伝える文章を工夫して書く問題では、市の平均を0.3ポイント下回った。	・文章に含まれているいくつかの情報がどのように結びついていくかを、図や表にして内容を整理する活動を、授業の中に取り入れていく。 ・多くの情報を比較・整理しながら、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	正答率は、市を2.4ポイント上回っている。 ○現代語訳を手掛かりに古典を読む設問では、市の平均を2.4ポイント上回っている。	・古典分野は苦手意識を持っている生徒が多いため、歴史的背景や当時の文化についても触れながら、生徒の興味・関心を高められるよう授業を工夫する。
話すこと・聞くこと	正答率は、市を1.6ポイント下回っている。 ○話の展開を予測しながら聞いているかを問う設問では、市の平均を0.3ポイント上回った。 ○自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話しているかを問う設問では、市の平均を0.3ポイント上回った。 ●発表内容を聞き取り、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫しているかを問う設問では、市を5.3ポイント下回っている。	・プレゼンテーションやスピーチなど、話し手に耳を傾け聞く活動では、メモを取りながら内容を整理するとともに、表現の工夫についてもメモを取れるようにするなど、ワークシートの工夫を図っていく。 ・書いた文章を、互いに読み合ったり、推敲したりする機会を設け、他者を意識して文章を書く場面を増やす。
書くこと	正答率は、市を2.3ポイント上回っている。 ○指定された字数や段落構成で記述したり、理由や自分の考えを明確にして書いたりする設問では、全ての設問で市の平均を上回った。 ●論理の展開を考えて、文章の構成を工夫して紹介文を書く設問では、市の平均を0.3ポイント下回った。	・文章の構成について学べるような授業を行うとともに、意見文や紹介文を書く学習活動を定期的に行う。 ・授業の中で、発問に対する考えをノートに書いて整理する学習活動を、今後も継続して行う。
読むこと	正答率は、市を1.1ポイント上回っている。 ○説明的な文章を読んで、文章の構成や論理の展開について評価をする設問では、市の平均を7ポイント上回った。 ●文学的な文章の表現の仕方について問う設問では、市の平均を3.2ポイント下回った。	・指示する語句や接続する語句に着目し、論理や物語の展開を捉えて読むようにする学習活動を、継続的に行っていく。 ・文学的な文章を授業で取り扱う際に、表現技法や情景描写に注目させる。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	70.8	70.5	62.1
	歴史的分野	68.9	66.6	57.8
	公民的分野	56.8	53.3	45.2
観点別	知識・技能	69.7	67.6	59.2
	思考・判断・表現	65.6	64.5	55.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

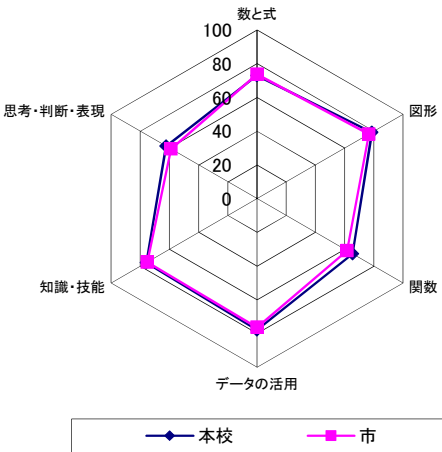
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	正答率は、市を0.3ポイント上回っている。 ○中国・四国地方の地域活性化の取り組みに関する問題では、市を5.7ポイント上回っている。 ○世界のさまざまな気候について、資料をもとに考察する問題では、市を5.3ポイント上回っている。 ●海洋の分布についての理解のもとに、地図を読み取る問題では、4.6ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・課題解決学習の際、1人1台端末を積極的に活用し、豊富な情報から必要な情報を適切に選択して、考察したりまとめたりする活動を多く取り入れる。 ・経線・緯線、大陸や海の地形を鳥瞰することができるよう、ICT機器を効果的に活用した学習活動を工夫する。 ・資料活用の問題を解く時間を授業中に設けることで読み解く力を身に付けさせていく。
歴史的分野	正答率は、市を2.3ポイント上回っている。 ○古墳時代までの問題では、市の平均をすべて上回っている。 ○江戸時代に関する問題では、4問のうち3問が市の平均を上回っている。 ●明治時代の地租改正について、資料を読み取る問題が、市を6.3ポイント下回っている。	・資料を読み取る力を向上させるため、ICT機器を活用して視覚的な資料だけではなく、聴覚的な資料などを取り入れて、多角的に分析する活動を行う。 ・社会的な思考・判断・表現の力を向上させるため、話し合い活動や文章でまとめる取り組みを継続して実施する。 ・「宇都宮学」や地域の歴史について触れる学習を随時取り入れる。
公民的分野	正答率は、市を3.5ポイント上回っている。 ○人間の尊重と日本国憲法に関する問題では、4問のうち、3問が市の平均を上回っている。 ○日本国憲法の基本原理に関する問題では、市を6.0ポイント上回っている。 ●様々な新しい人権に関し、考察し表現する問題では、市を3.1ポイント下回っている。	・「人間の尊重と日本国憲法」では、日本国憲法の基本原理を知識として理解するだけではなく、日常生活の様々な場面で憲法が活かされていることを体験、追究させる学習活動を工夫する。 ・ICT機器を活用して様々な資料を分析し、授業の振り返り活動で分析結果を表現する活動を取り入れる。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	73.1	73.8	71.4
	図形	78.7	76.7	67.9
	関数	65.5	61.6	52.2
	データの活用	77.8	76.4	65.4
観点別	知識・技能	75.8	75.2	69.9
	思考・判断・表現	62.2	58.9	48.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

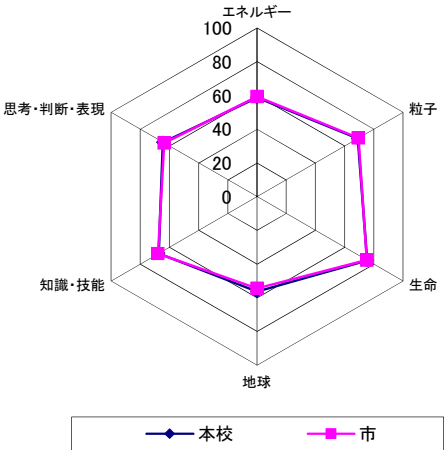
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	正答率は、市を0.7ポイント下回っている。 ○式の計算に関する問題は、ほとんどの問題で市を上回っている。 ○連立方程式の解が問題に適しているかを説明する記述の問題で市を上回っている。 ●方程式や平方根に関する問題では、ほとんどの問題で市を下回っている。特に平方根の乗法では、市を5.0ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算力を高めるため、計算の復習問題を授業の最初に時間を設定する。 ・自分の考えを数学的な用語を用いて表現するなど、記述問題を授業の中で積極的に取り入れる。 ・各学年の計算の授業において習熟度別学習を取り入れ、基礎・基本の確実な習得を図る。
図形	正答率は、市を2.0ポイント上回っている。 ○角の二等分線を作図する問題では、市を7.5ポイント上回っている。 ○多角形の内角・外角の和について理解し、角の大きさを求める問題では、市を6.6ポイント上回っている。 ●おうぎ形の面積を求める問題では、市を6.2ポイント下回っている。	・模型を使って図形を確認させたり、ICTを活用して図形を自ら動かしてみたりするなど、図形に対して多面的な見方が身に付くよう指導の工夫をする。 ・生徒の習熟度によって取り組む問題を変更し、個に応じて主体的に学べる場面を設定して活用する力を育む。
関数	正答率は、市を3.9ポイント上回っている。 ○関数の分野のほとんどの問題で、市を上回っている。 ○グラフをどのように読み取るかを説明し判断する問題では、市を7.8ポイント上回っている。 ●反比例の関係とその式についての問題では、市を4.1ポイント下回っている。	・授業の導入で、既習の学習内容を復習し、学びのつながりを想起させる。 ・表と式とグラフの相互の関係性を授業内でしっかりと確認し、関数の概念を獲得できるようにする。 ・日常生活と関連付けた内容の学習活動を取り入れるなど、主体的に問題に取り組める場面を設定し、グラフの書き方や式の求め方を考えさせる。
データの活用	正答率は、市を1.4ポイント上回っている。 ○ヒストグラムの特徴を読み取り説明する問題では、市の正答率を4.1ポイント上回っている。 ●5人の中から2人を選ぶ確率を求める問題では、市を0.1ポイント下回っている。	・グラフや箱ひげ図の特徴から読み取れる状況を説明し合う学習活動を取り入れる。 ・身近な資料を用いた教材を用いて、ヒストグラムや箱ひげ図を作成し、分析する学習活動を取り入れることで、学習内容の定着を図る。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	58.7	59.3	62.1
	粒子	69.0	69.5	66.8
	生命	75.4	75.2	70.9
	地球	56.3	54.4	52.0
観点別	知識・技能	67.3	67.7	67.2
	思考・判断・表現	64.4	63.7	60.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

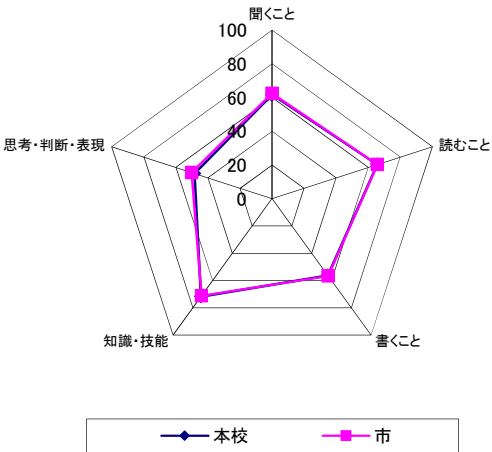
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	正答率は市平均を0.6ポイント下回った。 ○光の入射角の理解は市平均を7.3ポイント上回った。 ○反射光の道筋を考える問題では市平均を5.2ポイント上回った。 ●磁力線についての問題では市平均を9.3ポイント下回った。 ●紙テープの打点の間隔の変化から速さの変化を考える問題では市平均を2.6ポイント下回った。	・観察したものを作図する、特に磁力線など見えないものを可視化することに力を入れる。 ・調べたいことについて、予想を立て、見通しをもって実験を行うこと、わかったことを根拠をもとに考える活動を行う。
粒子	正答率は市平均を0.5ポイント下回った。 ○密度の求め方と、物質の特定の問題では市平均を8.8ポイント上回った。 ○塩化銅水溶液を殿筋分解したときの電極の様子を指摘する問題では市平均を7.2ポイント上回った。 ●酸化銅の分解の問題では市平均を5.6ポイント下回った。 ●電離の問題では市平均を6.7ポイント下回った。	・化学変化・電離といった見えないものを可視化することやモデル化することに力を入れ、化学反応式や電離を表す式で理解を深めるようにする。
生命	正答率は市平均を0.2ポイント上回った。 ○肺炎になると息苦しくなる理由を分析する問題では市平均を3.9ポイント上回った。 ○白血球についての問題では市平均を4.8ポイント上回った。 ●減数分裂についての問題では市平均を3.5ポイント下回った。	・生物の種類と染色体の数、有性生殖と無性生殖の染色体の様子を図示したり、課題を提示したりして、生徒が説明する活動を通して、有性生殖と無性生殖の違いについて、表現させる。
地球	正答率は市平均を1.9ポイント上回った。 ○スケッチから、火成岩を推測する問題では市平均を3.9ポイント上回った。 ○大気圧の大きさを求める式についての問題では市平均を10.9ポイント上回った。 ●ポンプを動かして水がくみ上げられた理由を説明する問題では市平均を6.6ポイント下回った。	・圧力に関する問題で差がみられる。大気圧の大きさを求めることは概ねできるので、その他の大気圧のはたらきを複数扱い、どのように圧力が働いている様子なのかを考え、説明する活動を行う。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	61.7	62.4	59.8
	読むこと	65.5	65.7	58.5
	書くこと	56.3	56.8	43.5
観点別	知識・技能	71.8	71.2	65.3
	思考・判断・表現	48.3	50.1	40.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	正答率は市を0.7ポイント下回っている。 ○英文を聞き、その内容を理解して、英文の内容に合う絵を選ぶ問題では、正答率の平均が70.8ポイントで、市の平均を2.1ポイント上回っている。 ●英文を聞き、必要な情報を把握する問題では、36.1ポイントと市を6.6ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・場面ごとで使われる表現を身に付け、聞き取れるようにする。 ・英文全体ではなく、聞かれている細かな情報を聞き取る練習を行う。 ・英語の音声に特徴を知り、何度も聞かせ慣れさせる。
読むこと	正答率は0.2ポイント下回っている。 ○英文の内容を捉える問題では、市の平均を2～3ポイント上回っている。 ○現在完了と間接疑問文の文法事項では市の平均を1ポイントほど上回っている。 ●対話文読解では、市の平均を6.2ポイント下回っている。	・英文の内容を理解する問題では語句や文法の知識の更なる定着を図るため、練習問題に取り組ませる。 ・会話の流れや文脈など、思考判断の力を養うために、問題の解き方を伝え、活用させる。 ・短文読解を通して、読むことに慣れさせ、部分的な情報を読み取る練習を行う。
書くこと	正答率は0.5ポイント下回っている。 ○対話の流れに合うように、英文を相手に伝えるように書く問題では、54.1ポイントと市の平均を4.1ポイント上回っている。 ●意見を書く問題では、36.1ポイントと市の平均を5ポイント下回っている。	・日々の授業で、自分の意見や考えを書く練習を行い、まとまった英文を書けるようにする。 ・文法や語句、語順などを完璧に書くのではなく、伝えたいことを表現することに重点を置いた指導をする。 ・意見文や理由を述べるときに使われる表現を学び、短文から書く練習をしていく。

宇都宮市立瑞穂野中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自主学習ノートの活用 (学習習慣の定着と、家庭学習の充実を目指して)	・生徒は、毎日1ページ以上を目安として自主学習ノートを活用する。 ・学芸委員が自主学習ノートの提出状況を記録し、自主学習提出率優秀クラスの発表を行う。 ・定期テスト対策問題を学芸委員が作成し、1週間前に生徒に配布し、テストに向けて、生徒の学習意欲向上を図る。	「ふだん、学校の授業以外にどれくらい学習しているか」の問いから、1時間程度の生徒が多くおり、3時間以上の生徒もいる。学習習慣は概ね身に付いている。自主学習ノートの活用も効果的である。 一方で、学力に関する調査項目では、平均正答率が市を下回っている項目も多いため、今後は学力向上を目標とした、自主学習ノートの内容充実に向けた指導を工夫していく。
・論理的に考え、思考を深め合う学習	・早く正確に読みとり、他の考えをきちんと聞きとり、論理的に言語表現するなどの「共に学ぶ力の育成を目指した授業」を推進する。 - 目標の明確化と振り返り活動 - 研究授業を通しての授業改善 - ミニ研究授業 等	「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」の問いの肯定割合が市を上回っている。授業中に学び合い活動を積極的に取り入れている成果であると考えられる。 今後も、その力を向上させていくために、授業その他の場面で話し合いを取り入れていく。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・「勉強が好きですか」の質問で1年生では「まあ好き」2・3年生では「あまり好きではない」と回答した生徒が多い。学年を進むごとに勉強に抵抗を感じている。基礎・基本の十分な定着がなされていないことが要因と考えられるので、思考力、判断力、表現力等を高めていくために基礎・基本の確実な定着は最重要課題である。各教科で、基礎・基本の確実な定着を目指して、指導方法や学習形態を工夫し、授業改善を図っていく。

・定期的に国・県・宇都宮市の調査結果を分析し、対策を話し合うことにより、学習指導上の課題を組織的に解決できるよう、校内研修の充実に努めていく。

・「主体的・対話的で深い学び」を実現させるために、学習課題の提示、中心的な学習活動や活動に適した学習形態の工夫、活動を充実させる1人1台端末の活用、学習意欲を引き出す発問、思考を助ける板書、まとめや振り返りの場の設定など、1単位時間の授業の質を向上させる。